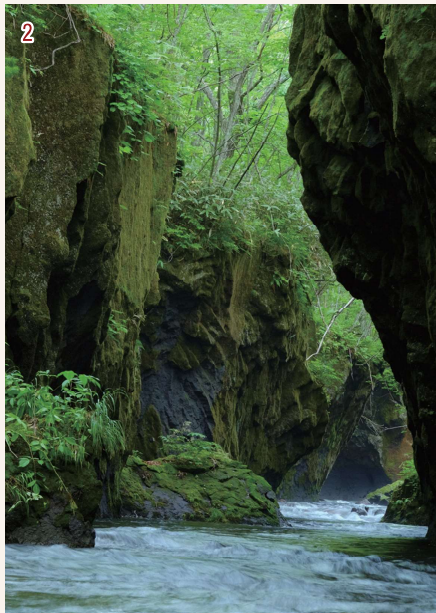


異世界に迷い込んだような特異な景観

たるまえ
②1 樽前ガロー

所在地：苫小牧市字樽前



樽前ガローは、樽前山麓の南側に位置し、切り立った岩壁にコケが生い茂る特徴的な地形のある場所です。

この地形が作られた過程は、寛文7（1667）年、樽前山の大噴火の際、火砕流が谷を埋めるように流れ堆積し、その後、溶結が弱かった溶結凝灰岩が樽前川によって長い時間をかけて浸食されたためだと考えられています。夏になると切り立った岩壁にはエビゴケやオオホオキゴケなど60種類以上のコケ類が生い茂り、緑の回廊のような他では見られない自然景観をつくっています。

苫小牧市では、樽前ガロー内の8.6ヘクタールを自然環境保全地区として昭和54（1979）年4月10日に指定しています。

※1 火砕流（かさいりゅう）
噴火の際に噴出した高温の火山灰や岩などが空気や水蒸気と混じりあい、高速で斜面を流れる現象

※2 溶結凝灰岩（ようけつぎょうかいがん）
高温の火山灰が大量に堆積し、その重さで熱により圧縮されてきた岩石

写真の解説

①② 切り立った岩壁にはコケが生い茂っている（写真提供：苫小牧写真連盟）

勇弘の原始の姿を今もなお残す地域

ゆうふつがわ きゅうふるかわ ちく
②2 勇弘川旧古川地区

所在地：苫小牧市字沼ノ端



写真の解説

■ 勇弘川旧古川地区の様子

沼ノ端市街地に隣接するこの地域は、勇弘川の河川改修の際、蛇行部分が三日月湖のように残った古川に囲まれた樹林帯です。この地区は、ウトナイ湖から蛇行しながら湿地帯の中を流れていた勇弘川の面影を残しています。

1990年6月から1991年3月までの期間の植生調査では、約260種の植物が確認されています。また、水生植物も多くカモ類などの水鳥の休息地及び採餌場にもなっており、今もなお原始の姿を思わせます。貴重な自然景観として11.1ヘクタールを昭和51（1976）年3月10日に苫小牧市の自然環境保全地区として指定されています。

自然環境の保たれた湿原地帯

しつげん
②3 トキサタマップ湿原

所在地：苫小牧市字植苗



写真の解説

■ トキサタマップ湿原の様子

トキサタマップ川の流域に広がる45.5ヘクタールの湿原です。湿原の中央部には、ヨシ群落・ムジナスゲ群落などの植生が広がります。ところどころに分布するハンノキ林付近の低地には、ミズゴケやヒメワタスゲの群落があり、河川の上流部にはタヌキモ、イトモ、ソソバビルムシロなどの水生植物が群生します。

チュウビ、オオジシギなど貴重な鳥類の繁殖にも利用されており、多様な植生と生物を育む貴重な環境として、昭和51（1976）年3月10日に苫小牧市の自然環境保全地区として指定されています。